



33年に1度の御開帳。京都との縁

仏性寺観音堂の本尊の十一面観音は秘仏とされ、33年に1度だけ御開帳されます。今回は昭和63年に京都・清水寺の管長を招き行われたそうです。と、ここで御開帳に、なぜ、清水寺の管長を招いたのか？という疑問が。

黒谷観音縁起によると、『平城天皇の父、桓武天皇の時代、延暦（えんりゃく）年中に奈良子島寺の延鎮（えんちん）上人は霊夢の導きによって山城国音羽山の滝のほとりに至り行叡居士（ぎょうえいこじ）から柳の名木を授けられました。延鎮は歓喜の涙にむせびながら観音菩薩の尊像三体を刻み、千手観音は清水寺に、如意輪観音は橘寺に、十一面観音は京都黒谷の仏性坊に安置いたしました。』とあります。

つまり、黒谷仏性坊が、下向した際に京都から大野に移され、その十一面観音と同木同作の観音菩薩像が京都に二体あり、その一体が清水寺にあるわけです。本当に縁とはいろいろなところでつながっていて、不思議なものですね。次回、御開帳されるのは2021年ごろ。めったに見られるものではないし、ほかの二体と見比べてみるのも面白そうです。



穴場スポット

「黒谷観音」

市街地から車で10分



てくてくりポート

®

～リポーターがお伺いします～



リポーター

西村 祥一さん

(26歳 清瀬)

最近、何げない会話の中や風景、動植物にふと、普段は余り意識していないけれど身近に興味をひかれるポイントがあることに気付くことが多々あります。今回、前々から気になっていた黒谷観音仏性寺を訪れてみました。

いざ、魅力の場へ

趣ある参道

某日。ついに黒谷観音仏性寺を訪れることができました。小さな橋を渡り、参道を進んでいくと巨木の根元に不動明王の石像が。さらに歩を進めようとすると、眼前にはなんと趣のある光景が広がっていました。道の両脇には松や



竹といった木々が立ち並び、参道はきれいにこけむして、差し込んでくる光を受け、またそれをね返して、とても柔らかくて光に満ちた印象を受けます。別の表現をするなら静寂の中に生命感があふれた風景です。参道をよくよく観察してみると、隅々まできれいに掃き清められています。

こういった見えにくいところにこの黒谷観音にかかわる方の気持ちが見えて心に気持ちよく感じました。ふと気付くと、いつの間にか入ってしまった体力がふっと抜けていました。

りとさまざまな表情をみせてくれます。何の気なしに歩いてしまうと、この小さなお地藏さまを見落としてしまいそうなほど、自然にそこにたたずんでいました。そんなに長い参道ではありませんが、ゆっくりゆっくり歩きたい参道でした。

境内は「極楽」?

山門にたどりつき、そ

の木造の山門を観察してみると丁寧な彫り細工が施されていました。さらに狛犬のような石像が組み込まれています。顔には所々にセミの抜け殻がくっついていて、狛犬の表情とのギャップにちよつと間の抜けた感じがかわいらしく、親しみを覚えました。山門をくぐると、実にきれいに手入れをされた境内と歴史を感じさせる建物が目に入ってきました。参道は木々と、こけの緑が清らかな空気を感ぜせていましたが、境内はいたるところにさまざまな花が見受けられて、落ち着いたなかにも華やかな印象を受けます。ちらつと、もしかして極楽つ



てこんな感じなのかな?と感じました。

本堂に上がり、お参りをしてから本堂を巡ってみると、不動明王の像、おびんするさん、と呼ばれるなで仏と河濯(かわそ)大権現がありました。おびんするさんは、直してほしい患部をなでてお願いする御利益があるといわれ有名なのだそうです。河濯大権現は子授けの仏さまなのだそう、たくさんの人形が供えられていて今でも祈願に訪れる方がいるように見受けられました。おびんするさんも河濯大権現も、今もたくさんの人から慕われている様子がよくわかりました。

訪問後記

ほかに、本堂の裏手には八十八カ所巡りの参道とご本尊を安置するための整備が進んでいました。さらに、日曜の朝四時から座禅会が開かれるそうです。座禅体験ができる場所が、身近にあることを知ってちよつとうれしく思いました。

今回の経験で、黒谷観音をとて身近に感じる事ができました。確かにあまり日常的に足を運ぶことは少ないかもしれませんが、こんなに身近に、日常とはちよつと違う経験ができる場所があるのとても面白いことだと思えます。また歴史も深く、ここに書ききれない魅力がたくさん詰まった場所でもありました。きつかけはちよつとした興味でしたが、魅力あるスポットが身近すぎて、その魅力に触れていない事は案外多いのではないのでしょうか。身近であることは、ちよつとした時間には大野の魅力に触れることができるということ。このちよつとした再発見、僕は癖になりそうです。



市民のページ

県リーグ「一部」昇格

サッカーの福井県社会人二部リーグで優勝を果たし、来シーズンから社会人リーグの最高峰となる一部リーグ昇格を決めたのが「奥越FC」です。チーム名の「奥越」には、大野だけの狭い地域にとらわれず、奥越全体から選手を集め、地域に根ざした生涯参加型サッカーのクラブチーム実現への想いが込められており、昨年末でのチーム名「奥越工スパルス」から変更する際もこの文字を残そうと話合ったそうです。

現在メンバーは十八歳から四十歳の二十二名。全員が学生時代、大野市内でサッカーを学び、「地元大野への貢献」を合言葉にリターン就職した選手が多いのが特徴です。今シーズンから立ち上げた奥越FCの下部組織となる奥越FCⅡも、勝山市民リーグに初参戦し優勝を成し遂げたとのこと。

「かつてサッカーの町をうたい文句にしていた大野市のサッカー界を再び盛り上げたいと思っています。一部に昇格できたので、次の目標である北信越リーグへの昇格を目指し戦っていきたい」とキャプテンの永野知秀さん。監督を務める田中啓司さんは「将来は、純粋にボールを追いかけるサッカー少年の夢の創造から、真剣に戦いたい社会人プレーヤーの活躍の場の提供、それに指導者として地域に貢献する人材の育成まで、年齢に応じて段階を踏むことができるピラミッド型クラブチームとして運営していきたい」と意気込みを語ってくれました。

「サッカーを通して大野市を盛り上げ、活性化につなげたい」今シーズンの練習試合で一部リーグ優勝のチームに勝ったことや昨シーズンのト



優勝を決め、喜び合うイレズン

ーナメント大会でサウルコス福井の前身、金津FCを一点差まで追いつめた経験があります。冬場の練習で筋力アップに力を入れ、一部リーグを勝ち抜くための技術力を付けたい」とメンバーの皆さん。奥越FCではメンバーを募集中。詳しくは事務局の出村雄治さん（☎090・5681・9555）まで。

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は、
情報広報課まで ☎0779・66・1111



山本 真実さん (陽明中3年)

山本さんは9月に敦賀市で開催された「少年の主張」で、知事賞を受賞しました。少年の主張は、中学生が考え感じていることを広く社会に発表することで、同世代の自覚を高め、健全育成に対する理解と協力を深めるため、青少年育成福井県民会議などが毎年行っているものです。今年、県内の中学校26校から6547人が応募。予選会などを通過した8人が県大会で自らの主張を行いました。

——発表した内容を教えてください
「会話のすゝめ」というタイトルで発表を行いました。携帯電話の普及に伴ってEメー



「少年の主張」県大会で知事賞
タイトルは「会話のすゝめ」

ルが盛んになった一方で会話をすることを避けようとしている人が多くなっていると感じていました。私も携帯電話を持っていますが、家族や友達との会話を通して、思いもよらなかったアイデアを得るなどの経験をし、この経験をすべての人に勧めていきたいという思いを発表しました。

——主張する中で工夫した点は

文化会館で開かれた地区予選では陽明中学校、県大会では会場の気比中学校の全校生徒が聞いていましたし、両親も見えていたのでとても緊張しました。特に県大会では最後の発表者でしたが、「こんな機会は一生無いかな」と思い、リラックスして一人一人に語るように心掛けました。

——受賞発表を聞いてどう思いましたか

発表したほかの方はとても上手で、まさか自分の名前が呼ばれるとは思っていませんでしたので本当にびっくりしました。先生からは「本番が一番良かった」と言葉を掛けていただき、とてもうれしかったです。結果を知った友達は「良かったなあ」と喜んでくれました。

知っているようで知らない

「越前おおの」再発見③

知っているようで知らない「越前おおの」の魅力。三回目は「大野百選特集」です。

◆日本百名山「荒島岳」

荒島岳(標高一五三三・五三三)は、深田久弥氏が昭和三十九年に出版した雑誌「山と高原」の中で連載した日本百名山の一つに数えられ、大野富士とも呼ばれています。

◆森林浴の森百選「九頭竜国民休養地」、水源の森百選「九頭竜国民休養の森」

九頭竜国民休養地は、九頭竜川の源流付近にあり、水源の森林として県下北部の市町への生活用水等の供給に貢献しています。森林浴の森は昭和六十一年、水源の森は平成七年に、ともに林野庁から選定されました。

◆森の巨人たち百選「桃木峠の大杉」

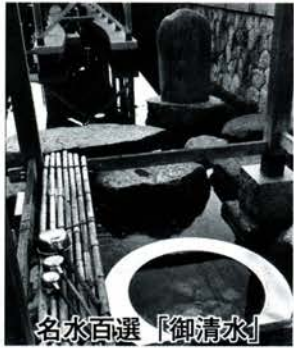
桃木峠の大杉は幹回り八八センチ、樹高三八メートル、樹齢は四百年以上といわれています。国有林の中から平成十二年、林野庁から選定されました。

◆全国名水百選「御清水」

御清水は、お殿様のご用水として使用されてきたことから「殿様清水」とも呼ばれています。適度なミネラル分を含みほんのり甘く、夏冷たく冬は温かいのが特徴です。昭和六十年、当時の環境庁から選定されました。

◆水の郷百選「大野市」

当市では、地下水保全条例の制定をはじめ、冬期の水田たん水や流雪溝の整備など、地下水保全に取り組んできました。水を生かしたまちづくりに優れた成果を上げている地域として平成八年、国土庁から認定を受けました。



秋まつり堪能

10月27日から28日にかけて、市内各地でまつりが開催され、大勢の観光客でにぎわいました。

(写真右) 九頭竜国民休養地を会場に「九頭竜紅葉まつり」が開かれました。昇竜マイタケや穴馬カブラなどの特産販売をはじめ、和太鼓演奏などのステージイベントが行われました。

(写真左下) 七間通りでは「三大朝市物産まつり」が開かれました。地元七間朝市に飛騨高山、新ひだか町の朝市も加わり、山の幸、海の幸がずらりと並びました。

(写真右下) 平成大野屋では「平成大野屋まつり2007～秋の陣」が開かれました。里芋コロッケの販売をはじめ、平蔵隊によるゴスペル演奏や平成大野屋柏支店主の大野雅之さん企画のヴィオラ演奏会、ペットボトルを使った「エココロ楽器づくり」などが行われました。



豊かな文化を発表

「名水の里に豊かな文化」をテーマに、11月2日から4日にかけて「大野市総合文化祭」が開かれました。盆栽、絵画、書などの作品展示や、中学生による吹奏楽祭などが行われ、日ごろ行っている文化活動の成果を発表していました。



話題のひろば



お城舞台に「しろでん」

大野青年会議所による「しろでん」が10月21日、亀山公園を舞台に初めて開催されました。小学生12チーム48人、中学生と一般合わせて8チーム40人が健脚を競いました。



上庄小開校100周年を記念し植樹

上庄小学校の開校100周年を記念した植樹会が11月6日に行われ、同校の6年生24人が参加しました。地元の山林の維持管理に取り組む上庄共栄会メンバーから教わりながら、クルミの苗60本を丁寧に植えていました。



春日野区が防災訓練

今年8月に自主防災組織を立ち上げた春日野区の防災訓練が10月21日、震度6の地震が発生したとの想定で行われました。班長は安否確認や被害状況を防災委員を通じて区長に報告、区長は市などへ報告するなど初動手順を確認。区を挙げて本番さながらに取り組んでいました。



操法技術競う

「大野市消防団操法大会」が10月21日、真名川憩いの島で行われました。日ごろの練習の成果を発揮しようと市内9分団の消防団員約300人が参加。小型ポンプとポンプ車の操作方法や放水技術の速さや確実性などを競いました。

ドングリいっぱいなあれ

10月21日、ドングリの苗木育成と稲郷地係にある上庄苗畑跡地の活用を目的に「ドングリの苗づくり事業」が行われました。参加した親子約30人は、下秋生地係の市有林でドングリを採取した後、跡地に移動し、畑に植えていました。



サトイモのころ煮



材料 (4人分)
 サトイモ 400g
 水 400ml
 しょうゆ 大さじ4
 砂糖 大さじ4
 みりん 大さじ3
 酒 少々

(A)

作ってみよう
 【まず】サトイモは皮付きで洗ってあるものを使います。
 ①鍋にサトイモと水、調味料(A)を入れて強火で煮る。煮え上がったら中火にしてことごとと煮る。
 ②汁を少し残して火を止め、冷めるまで動かさずに待つ。
 ③冷めてからサトイモをひっくり返して汁がなくなるまで煮る。

達人のワンポイントアドバイス

しっかり冷めるまで待つため、②の作業までは食べる前日に行くと良いのでは。サトイモをひっくり返す際、菜ばしを使うと煮崩れます。鍋ごと揺らして味を全体にからめましょう。
 (大野生活学校副会長 笹島友子さん)



今後は「サトイモのころ煮」です。今後も伝え残したい郷土料理。

伝えたい郷土料理

市民のうごき

平成19年11月1日現在

世帯数	12,277世帯 (±0世帯)
人口	38,897人 (-24人)
〈男〉	18,549人 (-26人)
〈女〉	20,348人 (2人)

◆10月中の内訳

転入	66人	出生	32人
転出	85人	死亡	37人



「多くの人の善意で今の自分があるとの思いを込めて十月に寄贈されました(林) 灘青さんが

秋篠宮さまをお迎えした「湧水保全フォーラム全国大会」は、学びの里「めいりん」で開かれました。そのめいりんの講堂に「明倫」の書が掲げられたのをご存じですか。大野藩主の土井利忠が開いた藩校「明倫館」にちなんだもので、大きさは縦一・五尺、横一・六尺。書家の山崎

編集後記



いよいよ極月。余日少なく日々の流れもぐんと足早に。庭先の寒椿を一輪窓辺に生けて一息入れる。五分咲きの紅色にほっと心が和む▼さて、地球が誕生して約四十六億年。壮大な地球史を一年のカレンダーにたとえると、この十二月は最も重要な月と言えそう。あの巨大な恐竜やわれわれの遠い祖先である哺乳類の出現が十二月半ば。人類に至っては、なんと新年間近というから驚く。光陰矢の如しなどごとくあくせくしてみても、地球史上では人類の歴史などまだ点にもなっていないというわけだ。皮肉にも、その点にもならない存在のわれわれが、今やわがもの顔で地球を蝕み続けている▼名水のまちで知られる当市では、冷水に強く冬を乗り越える力強さをイメージさせるイトヨが市の魚に選定されている。当市のイトヨは陸封型で、生息するには二十度以下の澄んだ湧水が必要とされ、地下水保全のシンボルにも▼折りしも、先ごろ秋篠宮殿下をお迎えし、湧水保全フォーラム全国大会in越前おおのが盛大に開催されたところ。次代に残したい風景や生物がわがまちにはたくさんある▼人類の誕生月でもある十二月。われわれの足跡が後々地球史上での汚点にならぬよう、謙虚に一年を締めくくり、新年に、そして未来につなげたい(羽生)

発行 福井県大野市

編集情報広報課広報広聴係 (☎0779・66・1111)